令和 6 年度実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■活動概要

助成団体	神奈川県葉山町
間接助成団体	葉山町総合型地域スポーツクラブうぇるま
事業細目名	総合型地域スポーツクラブ自立支援
事業名	葉山町総合型地域スポーツクラブ自立支援事業
助成金額	648,000 円

■調査内容

令和 6 年度総合型地域スポーツクラブ活動助成（自立支援事業）で神奈川県葉山町の間接助成団体である「葉山町総合型地域スポーツクラブうぇるま」が行っている「葉山町総合型地域スポーツクラブ自立支援事業」の実施状況について調査を行いました。

神奈川県葉山町の間接助成団体である「うぇるま」（以下クラブ）は令和 5 年度 3 月に設立され、現在の正会員数が 85 名の総合型クラブです。その他にも、ビジター会員として 30 名ほどが在籍し、各教室の参加料を支払い、活動されている方もいるとのことでした。実施している教室は 19 種目(ヨガ、トータルボディメイク、ピラティス、バレエエクサイズ、ビーチ太極拳、卓球、ソフトバレーボール、キンボール、ゴルフ、ビーチテニス、合気道、体操＆ウォーク、ラジオ体操、ボッチャ、モルック、ビーチラン、バドミントン、インディアカ、ダンス)と多く、幅広い活動を行っています。

調査当日は、葉山町とクラブから活動状況についてヒアリングを行い、その後クラブが開催している「ピラティス教室」の視察をクラブアドバイザー同席のもと調査いたしました。ピラティス教室は、大人世代を中心に 11 名の参加者で行われ、8 月の猛暑日だったため、空調が管理された会議室にて開催しておりました。参加者は指導者の合図をもとに、呼吸を整えながら体を動かし汗をかいて運動している様子でした。

クラブが抱えている課題としては、活動拠点となる施設がないため、安定した教室の開催が難しいということに加え、指導者や運営スタッフの高齢化による後継者の育成、助成期間終了後に向けた運営体制などが挙げられておりました。

■助成の意義

助成を受けたことで講師への謝金に充てる費用が増え、種目数を増やすことができるようになったそうです。また、会員募集のチラシの作成に助成金を活用して作成し、町広報誌への掲載によって町民への認知度が上がり、創設支援事業を受けていた時から 70 名ほど会員が増える結果へと繋がったとのことです。

■事業効果を高めるための取り組み

クラブが取り組んでいる工夫としては、入会金を通常 1,000 円のところ、アプリ上で登録した場合は 0 円にすることにより、現在は約 330 名が登録し、一部はビジター会員として活動してい

る方もいるようです。また、登録したユーザーに向けてクラブの情報発信を定期的に行っていることです。

その他にも、多世代の会員獲得を目指すための取り組みとして、3 か月に 1 回の頻度で交流大会等のイベントの開催や小学 1 年生から小学 6 年生までを対象としたこどもプログラムの参加者募集なども行っているとのことでした。

■その他

クラブは過去に、創設支援事業の助成を 2 年間受けており、令和 5 年度 3 月に総合型地域スポーツクラブとして設立に至りました。その際に掲げていた会員の目標数は達成しており、不安要素となっていた会費の設定額についても地域住民から理解を得られている状況とのことでした。

また、部活動の地域移行に関して、多くの種目を受け入れることは難しいものの、地域に根付いた協会があるサッカーやバドミントンなどの種目に協力できるかを模索しているようです。うぇるまが部活動の受け皿として活動することで、地域交流の場所の増加や安定した会場の確保などをすることで会員の満足度向上につながるのではないかといった計画も予定しているようでした。

■所感

今回調査をした所感としては、19 種目の教室をどのように安定して開催できるか、クラブマネジャーがタイムスケジュールの管理をしている中でクラブの課題解決へ向けた取り組みを行っており、効率的な運営に向けて模索中といった状況を感じました。また、葉山町スポーツ協会の加盟団体との連携を密に行い、地域住民が定期教室へ参加しやすくするための環境を構築していきたいといった展望もあるようです。

今後も、地域住民や葉山町スポーツ協会との連携や交流を図り、地域においてなくてはならない総合型クラブとしてより、発展されることを期待しております。

（令和 6 年 8 月 23 日往査）

（写真）ピラティス教室の様子



